

編集後記

- ◆エイプリルフールの4月1日、久しぶりにランチに立ち寄ったお店は、音無しで映像のみのテレビを普段は映しています。その日はいつもと違い、しばらくすると、菅官房長官が仰々しく「令和」と書かれた紙を高々と掲げ、新しい元号を発表していました。それを見聞きしていた女性客2組が「何それ。ラリルレロは言いづらいわよ」と一言。確かにラ行は発音しづらくもあり、後で考えれば、あまり馴染みのない「令」という字が使われていたのもそう言わせた一因かもしれません。
- ◆4月末から5月初旬にかけて10連休となりました。「お祭り騒ぎ」が延々と報道される中で、育児・家事に忙殺される若いカップルが「休みが長くて大変」とつぶやく姿が映し出されていました。また、連休で収入が減少して困るという非正規労働者も相当数にのぼると見られるなど、浮かれていられない人が随分多いのに気づかされました。改元・天皇交代の政治的利用との批判が高まりましたが、政権与党はごまかしと人気取りの政治ショーに明け暮れるのをいい加減に終わりにして、いまの日本社会の中で本当に困っている人の生活改善や将来不安の解消に全力を注いでほしいものだと思います。
- ◆今号の巻頭言は、衆議院議員の谷田川元さんに執筆をお願いしました。谷田川さんは前回の総選挙で千葉県第10区から立候補しましたが、惜しくも落選。本年3月に、相模原市長選挙に立候補した本村賢太郎氏の辞職に伴い、衆院比例代表南関東ブロックで繰り上げ当選となりました。巻頭言では、安倍政権によって繰り返された衆議院解散が党利党略による身勝手なものであり、許されるものではないことに言及しています。また、井原慶一研究員には千葉県議会議員選挙についてまとめてもらいました。今回の選挙では、自民党の単独過半数という千葉県議会の構造に大きな変化は生じていないことに触れつつ、この間徐々に進んできている候補者不足・投票率の低下という問題点に分析を加えています。
- ◆次号は、地方自治総合研究所委嘱研究員の菅原敏夫氏による「市民が進める自治体の条例づくり－人権と福祉の事例を中心に－」をテーマとした講演録を掲載します。菅原氏は、市民の側から自治体の条例づくりをおこなっており、とくに、外国人の人権を課題にした「人種差別撤廃条例案」、福祉・社会保障関係では「ケアラー支援条例」、高齢期の住宅のあり方を中心にした「住宅基本条例」の作成などに携わってきました。地域で市民活動を進めるうえで大いに参考になるものと思います。次号にご期待ください。

事務局長 佐藤 晴邦

自治研ちば 既刊案内



2019年2月
(vol.28)

- 巻頭言 千葉県地方自治研究センター理事 総武法律事務所弁護士 喜田 康之
- 第11回千葉県地方自治研究会基調講演
公共施設・インフラの老朽化と地方財政～住民の安全・安心を守るために
明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科教授 兼村 高文
- 第11回千葉県地方自治研究会 パネルディスカッション
司会 千葉県地方自治研究センター 理事長 宮崎 伸光
コメンテーター 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授 兼村 高文
パネリスト 千葉県議会議員 網中 肇
千葉県議会議員 田畑 直子
千葉県総務部資産経営課 副課長 島田 昌信
千葉県県土整備部道路環境課 副課長 石橋 和宏
- シリーズ「千葉から日本社会を考える」
ともに暮らせる地域の枠組みづくりを 外国人労働者受入れ拡大策の本来のあり方とは
島根県立大学名誉教授 井上 定彦
- 市議会報告 希望への再生・銚子の底力・住みやすいまちづくりを基本テーマに
銚子市議会議員 宮内 和宏
- 自治研センター活動報告 地域づくりフィールドワーク 市原市南部地域から考える
千葉県地方自治研究センター 理事 赤荻 渉
- 公共の担い手 地域における生活支援・介護予防サービスの担い手
NPO法人たすけあいサポートアイアイ 代表理事 岩橋 百合
- シリーズ千葉の地域紹介 都市アイデンティティ～「千葉市らしさ」の確立を目指して
千葉市都市アイデンティティ推進課 研究員 井原 慶一
- 新聞の切り抜き記事から 編集部
- 今期の入手資料
- 一般社団法人 千葉県地方自治研究センターの概要（会員募集）
- 編集後記 事務局長 佐藤 晴邦

バックナンバーの申し込みは当研究センターまで 1部800円

自治研ちば VOL.29

2019年6月19日発行

発行 一般社団法人

千葉県地方自治研究センター

〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10

千葉県教育会館新館6階

自治労千葉県本部内

TEL 043-225-0020

FAX 043-225-0021

編集 佐藤 晴邦

印刷 (株)メロウリンク企画

頒価 800円（送料別途）